≪資料3≫

令和3年度山梨大学教育学部附属中学校外部評価書

令　和　４　年　２　月　２　８　日　（　月　）
令和3年度学校関係者評価委員会　作成

Ⅰ　目標の達成状況に対する意見

・今年度も昨年度と同様，新型コロナウィルス感染症防止対策を講じながらの教育活動であった。そのため，年間行事予定の度重なる変更や，行事の縮小を行わなければならない状況であったが，教職員や生徒の主体的な動きによって，オンラインを効果的に活用する等，コロナ禍でできる教育活動を最大限行っていた。

Ⅱ　取り組みの状況に対する意見

・学習面について，学校側は自己評価で授業改善をしていると極めて肯定的なのに対し，保護者アンケートでは学校側ほど肯定的ではないという結果となっている。その背景として，今年度数週間実施したオンライン授業について，対面形式と同じように学習内容が定着するのかという保護者の不安が現れているのではないかと推測できる。
・保護者アンケートにおいて，「⑤分からない」と回答した保護者の割合が10%となっている項目がある。コロナ禍で保護者が来校知る機会が激減しており，学校の様子を知る機会が乏しくなっている。学校側から情報発信を今以上に実施していただくことで，保護者も心強くなると考えられる。
・今後もコロナ禍が続くと予想され，来年度も臨時休業・オンライン授業実施が想定される。安全管理に関わって，家庭でオンライン授業を受けている際の防犯意識や防災意識を育む取り組みを実施して欲しい。

Ⅲ　自己評価方法に対する意見

・自己評価の精度をより高めるために，1つ1つの改善策に対して評価をつけたことは，非常に興味深い。来年度の変化に期待したい。

Ⅳ　その他

・コロナ禍2年目となり，今後も続くと予想されている。子どもたちには様々な活動制限がかかり，数多くの我慢をさせている状況にある。来年以降，コロナ禍の影響により，心が蝕まれていく子どもたちが今以上に増加することが全国的に懸念されているので，附属中学校の教育相談体制を更に充実させて欲しい。
・コロナ禍の影響で交流が制限されており，地域で昔から受け継がれている伝統文化が伝えづらいということが，学校外の場において起きている。附属中学校でも同様のことが起きることを懸念している。

記載責任者（附属中学校　学校関係者評価委員会）　山本　武彦